

似てはしきものしきまゝくして珍み多し頂上より
少きもの葉せしむるありしうら二三人よつてゆりて
くはせしむる中の奇物とてを氣にめたる冬昔の
とてをきくしむる西國とてことをたしむりし云々の
物よきものしきまゝくすもの

竹 竹の類ありしあげてかきくし臘月は植へし
又五月は旬うんせしむる竹根をゆりて植むと流りせ
五月十日を竹は碎日といふは竹を植むと流りせ
竹よありしして植ぬと多くハくる晋の戴たい凱がい之の竹
は流りせ多し物とありありしむりけり古今集よの流

恒武乃所は言律り内親に此竹はありありし
事ありありし竹のよのけしむりありありし
とありありしむりけり山さん海かい經けい尔に雅や竹ちく文ぶんを
竹書は流りせしむる竹よハ流りせしむりありありし
竹として一節はありありしむりありありし
て流りせしむりありありしむりありありし又天竺遺
事はありありし 孝民要術は曰く竹はハ三年は地はより
ありありし割りする葉白ありて柔ちかなる玉たま一は二月
のころはりて葉はありありしむりありありし
ありありしむりありありしむりありありし流り

へうし竹植るよき竹をすり去り竹あをえて是
 をうす竹根をうとうしむるやうか或曰あをさる
 へうし竹只上にあふ架とすてうし久竹を上下
 あふよゆつ竹風うとうさるやんすし四地あふ
 而後竹入し西風あふれをり、種樹云曰本二
 三竹とらゆりうす竹植し又曰竹をうすまは土
 と二三尺さくまへしあふ損口を居家必用司竹を
 植るよ竹年し只ま陸のうら尾を植るよ竹活る凡
 竹のあふし載凱之カ竹乃譜竹乃多於六十一あり
 と云り日本あふ竹若竹女竹藤竹一矢竹

篠竹 雲竹 鳳尾竹 金竹 五雜組曰竹甚
 多竹 金竹 ちゆ竹あも竹ゆ 五雜組曰竹甚
 多竹くハ間をさる人し竹をわくさうりて竹凡
 竹はあふのさるハ人の疲蕪のさるをさるをさる
 切し只さ根と留しし竹年よ必生すさるさるを
 必植る。○露林玉露は竹ハ旬日代間よせまて
 竹をたけしやま入るれさる靈異此むけさゆのく
 と云り王子猷ハ毛とやうして竹を一日もよ君さるる
 と云は子美りはる平生憩息地必種數竿竹 梅聖俞
 詩みも 賈山須買泉種樹須種竹 東坡 緑筠軒ノ

よ浮りて雲のうらよ向ふあきてお十年と経てお
一て地ようきこまきくちうま一りあしし又
けりて雲よゆきあふくく月と経てうきこ又
しあしし玉栢とよ

木

松 松八百本れ長くあふよすれて千平れよし
保ち書名とあしして四時常に緑なり葉さなり
操ありて君子れ徳よひせりゆみくありくや
ちよきくすくすくありく又梁の陶弘景ハ松風と
あしして庭院皆松と人てきよよと書とすてあし

とさるり松のあししハあしれよきくゆるゆき
ゆきあし多くゆしゆきれ松の種れ多し女松雲松
ありみ松ハ和俗に葉と云海松ハ葉あり葉よ
へし海松よりそあわゆる故和俗く松と稱とん
大目やあし信濃戸隠山とんありつありえあり
松と植るハ喜社のあしとんありくあししいさ
とりつるくしけりしし辨 農桑通訣よし
松とよよハ八月の中にああ新枝をゆり定と
りり枝とんれあししてきりくつき堅きくあり
あしとんし雨よきあしとんし雨よけあしとん

中松すくみし程樹をよのく松を植ふるよハ大根を
 切去て只すくみり此らげねともしもて生かす
 の後植ふる事なれ松の根を根を根を根を根を根を
 勤くすくみん。○蹇驢嘶餘日ふ糸松糸法糸の
 朽目に付る膏糸の方干麩の粉を赤土中を指て
 付てよとねのこの糸あく包へしゆりとい程力つら
 てうらぬん久くくくくくくくくくくくくくくくくく
 くの虫の付る糸並とゆりて三汁をくくくくくくくくく
 と松糸してゆりくゆりくゆりくゆりくゆりくゆりくゆり
 ○中松を植ふる法は右の末二月のころめ山よある松糸

中松の根を盤とらうくくくくくくくくくくくくくくくく
 けりておとろげゆりくくくくくくくくくくくくくくくく
 かの根ハくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 縄あく糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 よゆめくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 後竹糸とておとゆり糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

冠譜卷下

四

日西をみゆてうへし西よりうへしとて活やうし
 善ふれお秋ふれ後おとせびるはさうりてうへしと
 多くハ活く。ハ益ねとやう少活善かとうをね
 可節ハ松の芽出さうとてさうりのかへんねおわて
 つじへしほよせと芽とさうりへし夏のうへしき目
 よありへしと秋の活葉のびとハ葉とらうはは
 冬定とて毎ハ毎ふかふかかたはれとておぬある
 とてハ玉れ志ありあるゆへにうらうはともさうと
 へし善友ハ何りあるよれとて何りあるとて思て
 つじかつてりて人し葉よましくおま虫つや年とし

けけて。ねととてんし。〇ん志けきつねのりある
 ぬハつてむ

栢カエ

うえのふハ古あふより栢のれまし栢栢と見

此より一とていふ万葉の詩よふあるとてくうておて
 ありまもゆもまもるるも木葉れくからさうすし

檜ヒノキ

農桑要訣ふいしく徳とさうり二三月芽のつてん

とすうとて先赤おとくくさうとてうへ聞とて
 てんをきき松の枝小指のしとてうへねとて一尺
 ありとてりおさうりてる此年の秋はれとて先小枝とて
 おさうりてたてとて一とてはとて人しとておて

葉も美なりやの似たり又やうけくともおのり葉
くやの似たり

備^{とら} 秋もれ月もあまのあま古くも多くとあり

又秋眼ももつり園も人てもととて人し實基

本紀曰楸一名高樹木約受自然之正氣冬夏

皆^一之故衆木中以質木号楸也

佐和野木 乞楸栢の類と云ふなりし

杉 木よよりし杉の種多し鬼杉を下よし流木

香推ふは楸^か杉あり古くはよよりしを製ありり

てあやの紋のしし他ありハされあり製部あり

秋安寺及山科初修寺あり。寺に杉ハあり人

或よりあましし木れ直るる事しよハあり人の

よきふハあり。杉乃枝と云ふ。西内枝は栢と

用ひるし中なる年のしし十枚と一抱よりけ合也

ねて玉俵と云ふ人三方より數百葉を地より俵と

してあまの杉ハありししして後白根ける

時よりあまの俵と云て栢もよき風ありしり

あまの杉を俵入り御よよよと云す。一法西内法

地のかまありし杉ありし赤土のやうにねえ

きりし杉はねて完まつてよき人し法地あり

2ある者として子同く寸葉の赤山を布錦
 雄牧の尾梅尾笠取山ある機樹の紅葉ハとて
 5人のむもまきなり凡てこの種れ多し又ハ
 塩野村種々席のみらさいがいの葉れ多し
 就回のお葉ハ必機樹大よりさるへく寸葉あり
 かねんし就回ハ機樹ハと多く寸葉の山ハ機樹
 ハとくなくして池の紅葉多し吉野山ハ秋を
 機樹の紅葉ありして葉のむも寸葉あり
 冬青樹 三種あり一種ハまきにして寸葉ハ一丈あり
 葉久しして厚し四月より白く実ハ赤なり

似て小きものあり冬よりなりて赤くなる
 葉の月をありつぐいなり好んでし万葉集
 云げ半葉時珠、食物を食ふなりなり
 常葉とくしそめの紋イサなり似たりも葉の
 冬一穂の字と日記あり乃和名樹とあり
 河と云ふは機樹の字を万葉集なりと注せり
 叶つりハ一種ありそめあり葉ハめさなり
 此くありてありと一葉なり
 葉の葉も入るん場なりハ一種ありとあり
 冬

清予 ウキ 冬より紅しして夏へし好まき
 とみはくを甲日あてしうふは極しき枝の
 羽のしし好まきを兜箒を云々枝を愛し
 独心痛のまきを糸と好ましくしよふ
 和俗考とすなりと云是すすの初人の海多

し初あを又すううすを佳あををうへておし
 し実うよと人しうくもすはまして肌あう
 うふあううして直くま細うして性解し琴
 又ゆうして良材を云々胡椒のらるる種あり
 醫書に丸薬のたうと極細子のたうとくとの

ハ毛より又白柳あり是世俗乃すりと云て極
 すうまを花桐ハあう桐く大桐くうみ極あり何
 ともよのううとくしき極桐ハハうわ

梓 スズナ 系ハ桐子似て実ハ紅豆のくくあう一碑雅云

梓ハ百木れ長し故よあまといふ種形云あま
 木あきて竹材皆雷れあううきすとくけ
 小和俗は木と園ようあきと雷をらすと云

黄楊木 ウツギ 人取多く是極小あを子んし
 ちしくあをれ系あうくも或はあはあ
 系變してあうくもさうりる極うハあうす

木ハ掃ハゆる古言ゆとツケのク一とありツケの
形多し尾張ツケいぬち作いぬち本いぬちあり

雅

赤土あかちありあかちよりあかち一あかちなるあかちしあかち日本あかち草
よのあかち書府志あかちのあかちありあかち実あかちしあかちま

栴

栴あかち登城あかち 月あかちは細花あかちをあかち多あかち秋あかち冬あかちはあかち赤あかち土あかち肥あかち土あかち圃あかち
はゆるあかちよりあかち一あかちなるあかちしあかち日本あかち草
よのあかち書府志あかちのあかちありあかち実あかちしあかちま

椿

香椿あかちと云あかち近年あかちよりあかち一あかちなるあかちしあかち日本あかち草
よのあかち書府志あかちのあかちありあかち実あかちしあかちま

橙

木あかち酒あかち は樹人あかちこあかちりあかちてあかちなるあかちしあかち日本あかち草
よのあかち書府志あかちのあかちありあかち実あかちしあかちま

元祿十一年戊寅九月日

東洞院通夷川上町

林 九兵衛

高辻通雁金屋町

永原屋孫兵衛

天保十五年甲辰八月補刻

高倉佛光寺上町

皇都書林 丸屋善三郎

篤信嘗謂學者之進德修業也固當
 勉強而不懈然不可拘迫々々則難
 久也須寬舒於心志愛養於精神如
 此則無局促之態而有優游之樂勉
 強與優游二者當並行而不相悖是
 君子一張一弛之道也夫勉強刻苦

之餘暇從容緩步徜徉乎苑囿靜觀
草木之生意而時試天機之不息吟
卷弄樹以悅心目是燕居之幽賞閑
中之佳興也人生享斯清福不亦樂
乎

山中瑞錦堂

三條通寺町西へ入町

丸屋善兵衛

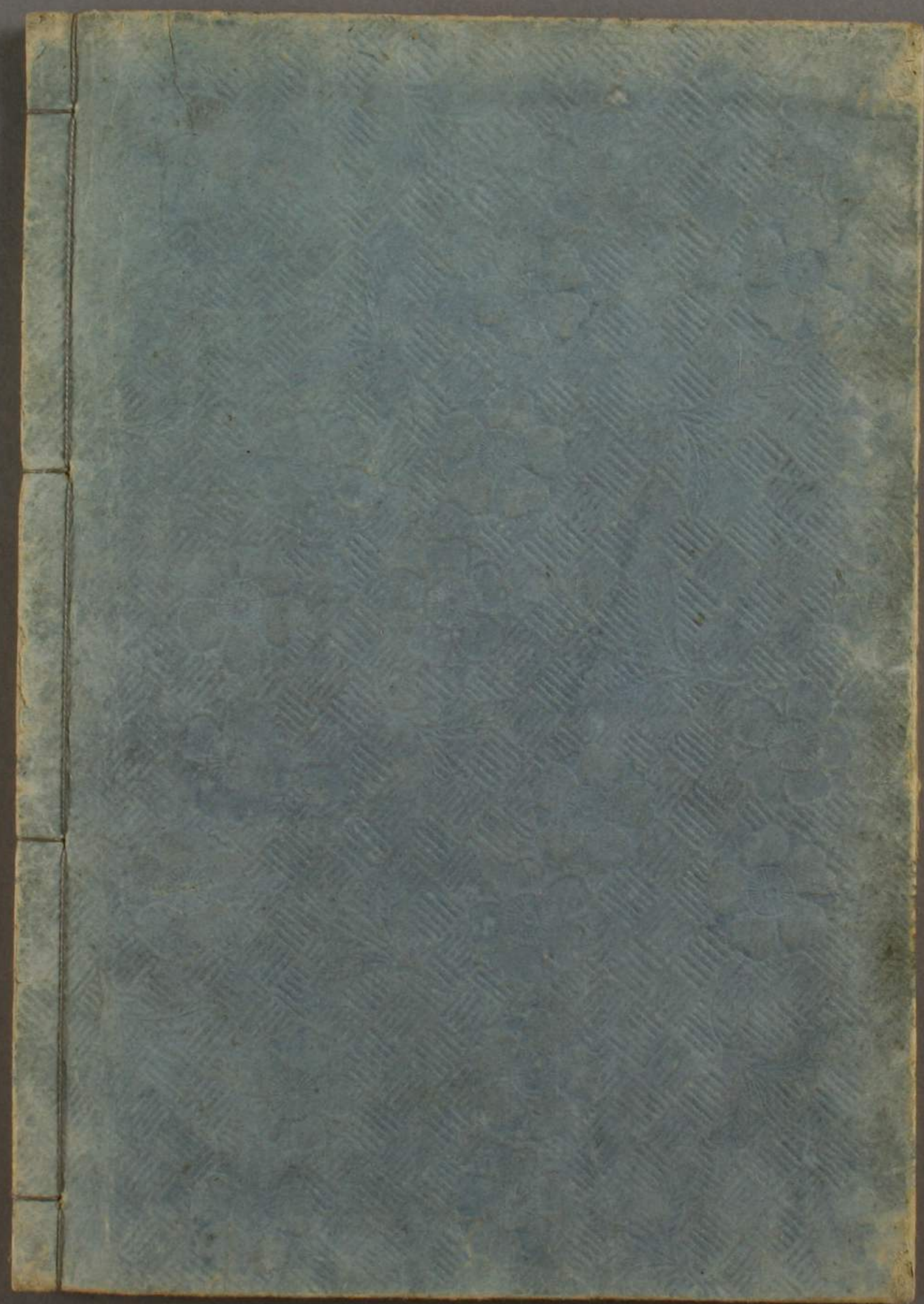
寺町通錦小路上ル町

大和屋善四郎

高倉通佛光寺上ル町

丸屋善三郎

平安書肆



益軒貝原先生著

花譜

全部三冊

平安書肆

瑞錦堂藏版